

2025 年における次世代モビリティの提案

概要

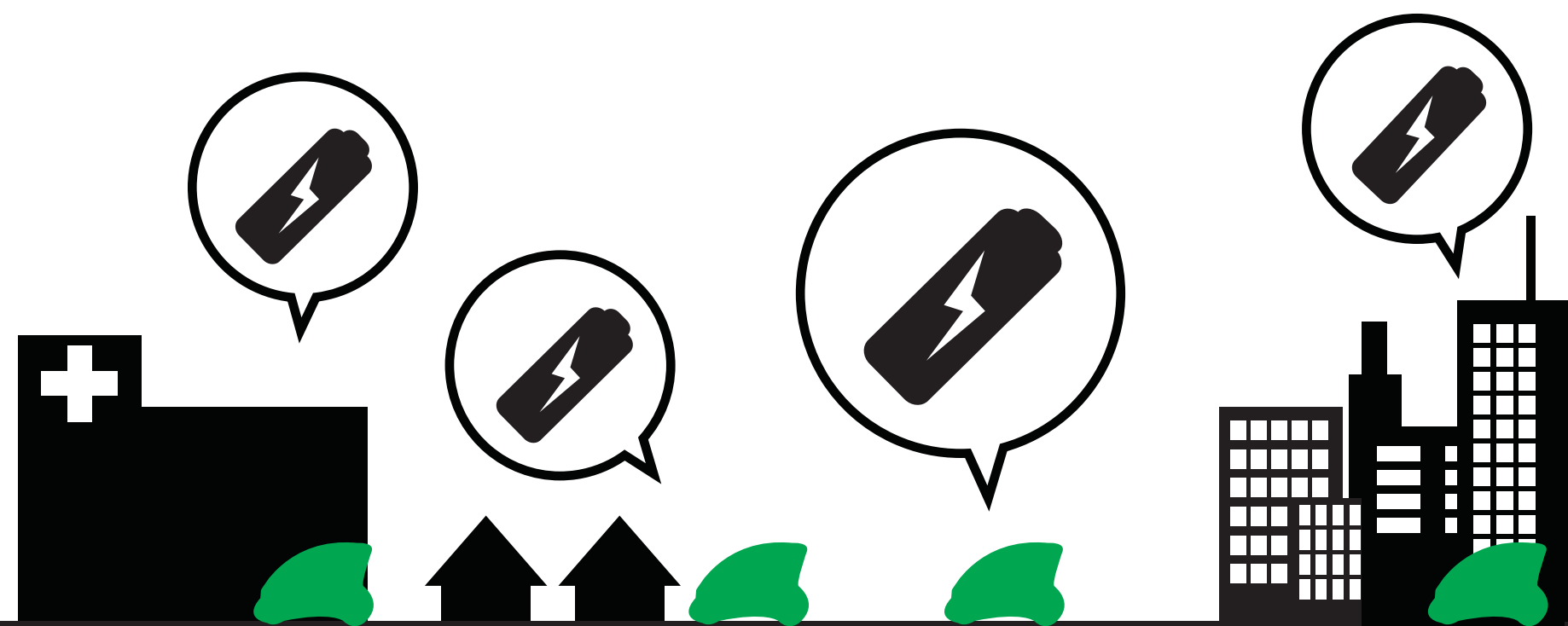
東日本大震災以降、エネルギー不足が問題になっている。

省エネを推進するためにスマートグリッドを適用したスマートシティの実現に向けて次世代エネルギーシステムが注目されている。

本 PBL では、EV バッテリーの活用を考えた新しいモビリティ（CELL）を提案し、シティ単位のエネルギー供給型社会の実現を目指す。

CELL とは＝細胞（モビリティ）のこと

本プロジェクトでは、バッテリーを積んだモビリティを都市の細胞に見立ててあらゆる場所に配置し、エネルギーネットワークを構築する。



デザインキーワード

ECO

電気自動車を普及させる・一人一台制ではなくシェアリングすることで台数を減らす、アンダーボディを再利用できるなど、環境に配慮したモビリティを目指す。

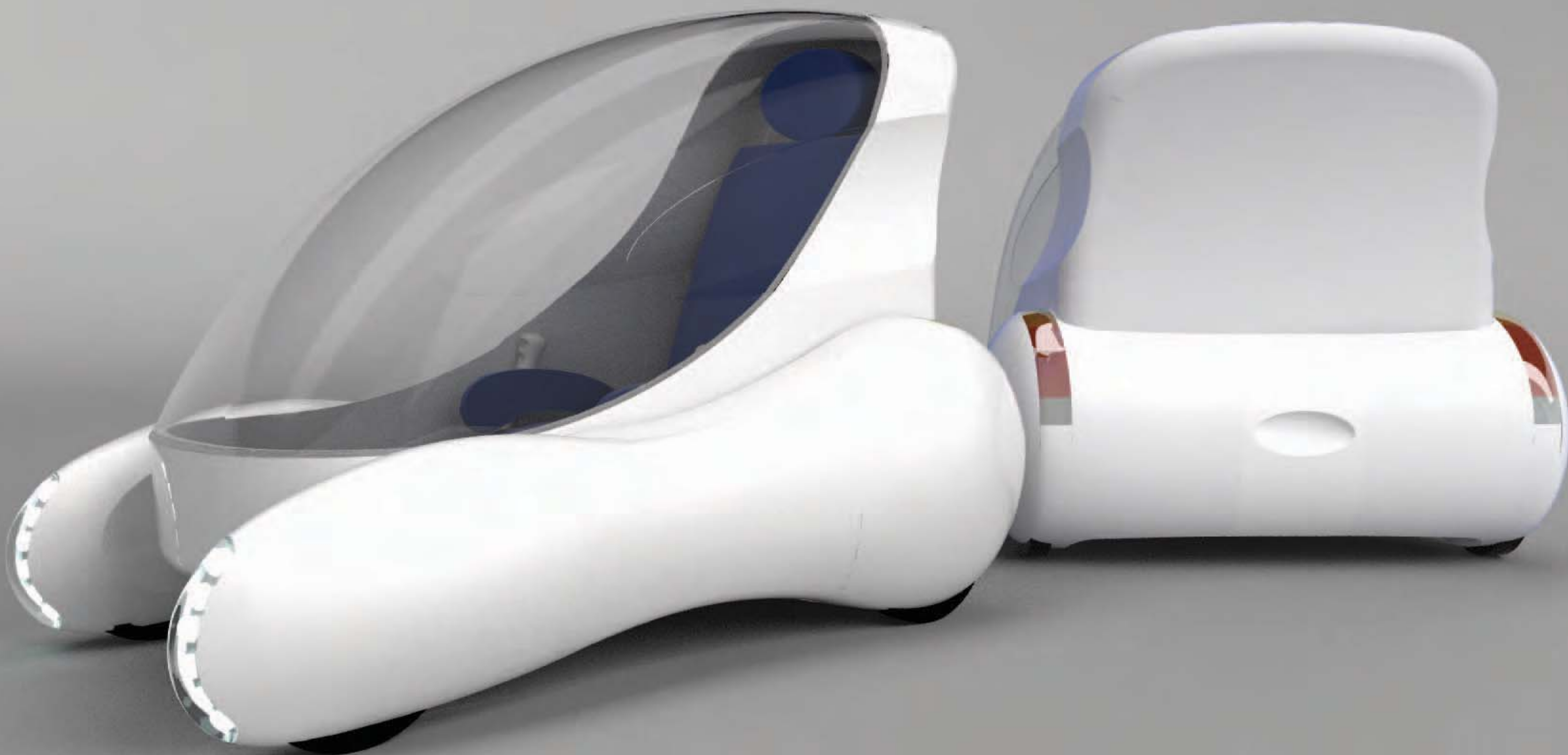
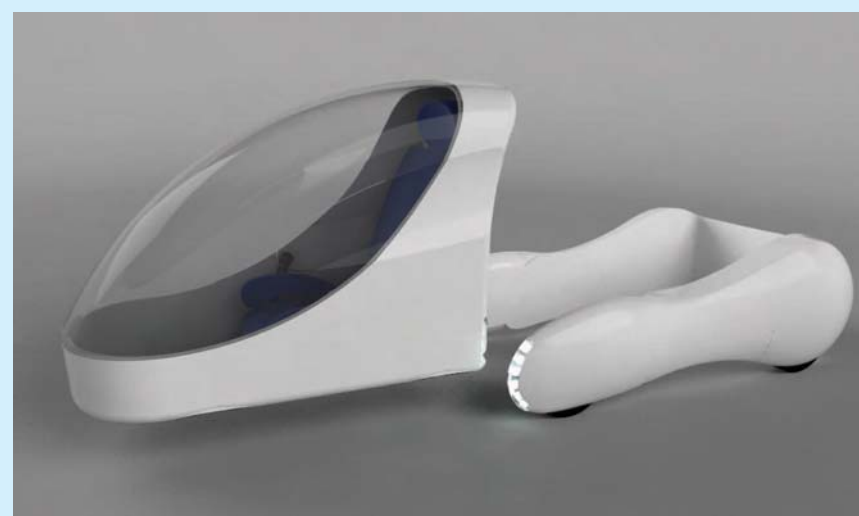
包む

和菓子や握手するイメージから、利用者を優しく包み込み守ってくれる、安心感のあるデザインを目指した

人と人とのつながり

カーシェアリングをすることによって、コミュニケーションが増え、複数人で使用することで物を大事にする地域性が育まれる。

- ・カーシェアリングの普及
集団でのリースや、カーシェアリングを導入することにより、一台あたりの活用率を上げることが出来る。
- ・自動運転
環状道路に入ると自動運転に切り替わり、移動中に充電を行うことができる。
- ・アンダーボディの分離
キャビンを替える際にアンダーボディが外れる。また、バッテリーを搭載しているので非常時にはこの部分のみで電源として使用する事ができる。



デザインポリシー

デザイン